

都道府県・ 指定都市番号	05	都道府県・ 指定都市名	秋田県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	特別活動
研究課題	学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 ①合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫 ②自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫				
ふりがな 学校名（児童数）	せんぼくしりつかくのだてしょうがっこう 仙北市立角館小学校（472 名）				
所在地（電話番号）	秋田県仙北市角館町西野川原 56－1（0187－55－2188）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.city.semboku.akita.jp/sc_kakusyo/				
研究のキーワード	話し合い活動の充実、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力、指導と評価の在り方				
研究結果のポイント	○合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(1)の指導 学級会において、話し合いの流れを明確にし、「くらべ合う」や「どのようにするか」に重点を置いて、短冊や思考ツールを活用して話し合うことにより、思考力・判断力が高まってきている。 ○自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(2)の指導 「見付ける」段階で、ペアやグループ・全体での話し合いを効果的に取り入れたり、TT を生かした指導を行ったりしたことで、具体的な個人目標を自己決定する力につながった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

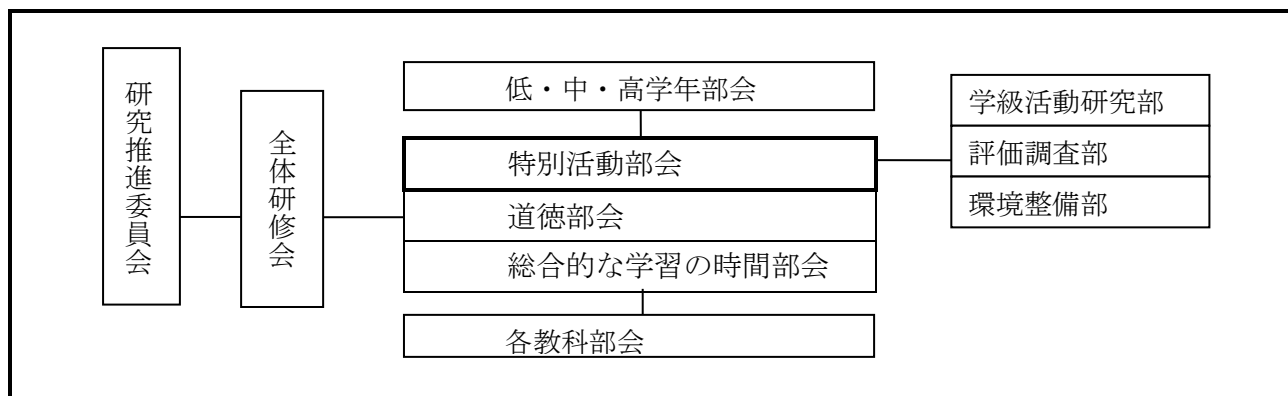
自分のよさを積極的に発揮しながら、協力してよりよい生活を創っていかうとする子どもの育成
～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

地域の祭りや伝統を大切に思っている児童が多く、様々なことに興味や関心をもって取り組むことができる反面、自分で考え判断して行動したり、目標を立て見通しをもって取り組んだりすることに課題が見られる。また、自分を通そうとする思いが強く、好ましい人間関係を築けない児童、生活習慣の乱れから学校生活にしっかりと向かうことができない児童、規範意識や集団の一員としての役割や責任を果たそうとする意識が低い児童も少なくない。

そこで、児童が学年や学級を超えた多様な集団の中で、合意形成を図り試行錯誤しながら進んで活動する経験を積むことにより、集団の一員としての自覚や自己の生き方についてのよりよい認識を深め、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を身に付けることができることを目指している。また特別活動の充実により、学校が活性化するとともに、各教科における学習意欲の向上を期待し、この主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成27年度	○研究テーマ，学級目標の設定 ○話し合い活動における低・中・高学年の指導計画作成 ○児童会活動の組織，委員会活動の活動内容等の計画作成 ○年間指導計画の見直しとその適切な活用 ○話し合い活動における合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫についての共通理解 ○授業研究会を通じた研究の成果と課題の整理 ○研究の成果の検証，課題に基づいての次年度の方向性の明確化
平成28年度	○前年度の成果と課題を生かした取組を継続し，学級活動の充実を図る。 ○思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫 ・「話し合うこと」の適切な設定，板書の工夫（短冊，思考ツールの活用），振り返りの工夫 ・評価基準の見直し，児童質問紙と教師アンケート ○年間指導計画の見直しと適切な活用 ○前年度の委員会活動の振り返りを生かして活動計画を作成するようにしたり，学級会の指導を生かして，代表委員会での話し合いの進め方等を指導したりする。 ○特別活動における話し合い活動の実践を各教科等での話し合いに生かす。 ○公開研究会を開催し，二年間の研究の成果と課題を明確にして検証する。 ○今年度の研修のまとめと次年度の研究内容等の立案，検討 ・研究の成果と課題を明確にし，次年度の研究の方向性を探る。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 学級目標設定の仕方の工夫
- ② 教室環境の整備
- ③ 話し合い活動の充実
- ④ 年間指導計画の見直しと適切な活用～実践しながらよりよいものになるよう改善を図る
- ⑤ 低・中・高学年の話し合い活動における合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方について
- ⑥ 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫
- ⑦ 児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え，判断し，協同して実践できる力を付ける児童会活動の改善

(2) 具体的な研究活動

① 学級目標設定の仕方の工夫

研究部から学級目標づくりの基本姿勢と手立てを提示し、学級生活づくりの指標となる学級目標を児童の思いや保護者の願いを生かしながら設定した。学級活動(2)の内容で扱い、教師が1年間の学級生活を見通して目指す児童像を明確にし、教師の明確な学級経営の方針を示した上で、教師の適切な指導の下に、生活グループや係活動等、学級の組織づくりを行い、仲よく協力していこうとする自発的・自治的な態度を啓発するようにした。

② 教室環境について（環境整備部の提案で全学級統一）

教室に、「学級会コーナー」や「学級の歩み」（学級会の記録や活動の振り返り）を掲示し、児童がよりよい学級生活をつくろうとする意欲の向上を図るようにした。

③ 話し合い活動の充実

環境整備部が「学級会の進め方」を学級活動研究部が「学級活動ノート」を作成した。「学級活動ノート」は、実践の場面での振り返りまで、一連の活動について記録できるようにした。また、「出し合う→くらべ合う→まとめる（決める）」の話し合いの流れが分かり、児童の思考の可視化・操作化・構造化につながるような板書を計画した。短冊などの思考ツールや磁石を活用し、話し合いの視点を明確にして、意見を分類・整理してよりよく決めることができるように工夫した。

④ 年間指導計画の見直しと適切な活用

学級ごとに学級活動の年間指導計画を作成し、学級目標と学級経営目標、(1)の予想される議題例、(2)のねらい＜学年統一＞を明記した。発達の段階を考慮し、(2)のア～キを配当時間の見直しを行い、ア～キのそれぞれについて指導計画を作成した。

⑤ 低・中・高学年の話し合い活動における、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方

学級活動ノートへの意見の事前記入、話し合う視点の明確化、提案理由等を意識しての話し合い、思考ツールを活用し視覚化・構造化を図った板書の工夫、発達の段階に即した話型の活用（中・高学年は自分の言葉で）などについて、全教職員の共通理解のもと、実践した。評価については、低・中・高学年ごとに「話し合い活動」の指導のねらいと評価規準を作成した。また、評価調査部で質問紙と確認シートを作成し、6月に児童へは質問紙で、教師にはチェックシートで実態を把握するアンケートを実施した。

⑥ 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫

学級活動(2)の授業は、児童が自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう展開を工夫し、自己指導能力の育成を図った。板書計画を立て、ティームティーチングを活用して、児童の実態や発達の段階に合った情報を教師が提供したり、みんなで解決に向けて話し合う場を設けたりした。

⑦ 児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協働して実践できる力を付ける児童会活動の改善

委員会活動の評価カードを見直し、児童が振り返りをしっかり行えるようにした。課題を代表委員会での話し合いの提案としてつなげるなど、前期の振り返りを生かすことができた。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

<成果>

○合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(1)の指導

- ・一人一人が、学級活動ノートに意見を記述し、教師が、助言や励ましを書いて返すことにより、学級会で自信をもって自分の考えを発言できる児童が増えてきている。(話すことについて肯定的に回答した児童の割合 H27年6月 71.6%⇒H28年9月 75.1%)
- ・計画委員会で事前に板書計画を立てたり、シミュレーションを行ったりすることで、話合いの流れを明確にして学級会を進行することができるようになった。
- ・短冊や思考ツールの活用、「くらべ合う」や「どのようにするか」に重点をおいた話合いの積み重ねにより、話し合う力がついたと「強く思う」児童の割合が高くなった。(H27年6月 41.9%⇒H28年9月 46.0%) また、思考ツールの活用により、話し合う際の「考える視点」を明確にして話し合うことができた。話合いの過程や思考を可視化し、板書を構造化することで、それぞれの考えの違いやよさを比べて考えを交流したり、よりよいものを考え出したりすることができ、折り合いをつけて話し合うことができるようになった。
- ・実践においても視点を明確にして振り返り、「学級活動の歩み」に成果や感想を掲示することで、次の学級会の話合いや実践に生かすことができるようになってきている。

○自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(2)の指導

- ・「見付ける」段階で、ペアやグループ・全体での話合いを効果的に取り入れることで、具体的な個人目標を自己決定する力につながっている。
- ・養護教諭や栄養教諭の協力を得て、専門性を生かしたティームティーチングを行うことで、児童が解決や対処の仕方を主体的に考え実行できるようになってきている。

<課題>

○合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(1)の指導

- ・児童の問題意識を高め、必要感のある議題を選定できるようにする。提案理由により、「何のために行うのか」「何のために話し合うのか」について、しっかりと共通理解を図る。
- ・「くらべ合う」段階での指導
提案理由や決まっていることに基づき、自分の考えと比べながら、よりよいものはどれか常に考えながら聞き、自分の考えを広げたり深めたりして、プラス思考の話合いが展開されるようにする。

・「まとめる(決める)」段階での指導

個(私は)から集団(私たちは)へと思考を切り替え、多様な意見のよさを生かして折り合いを付け、みんなが納得のいく集団決定ができるようにする。

○自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる学級活動(2)の指導

- ・解決方法等を話し合う際に意図的にグループを編成するなど工夫し、多様な解決方法が考えられるようにするとともに、自分に合った具体的な実践目標を設定して自己の課題を解決することができるようにする。

(2) 今後の取組

- ・近隣の学校や大曲仙北特別活動研究会と連携を図り、事前研究等の協力を得て、H29年11月に東北地区特別活動研究大会を実施し、研究の成果のまとめと普及、今後の課題を明確にする。
- ・ホームページに指導案や実践の内容を随時掲載していく。